

# 中川村新たな学校づくりプロジェクトその6

令和13年度の開校を目指している小中学校を統合した義務教育学校について、今回は、第4回新たな学校づくり委員会と今年度2回目のシンポジウムの開催報告、作業部会の検討事項の詳細についてお伝えします。

教育委員会総務学校係 TEL88-11005

## 【第4回中川村新たな学校づくり委員会】

9月18日（木）に第4回中川村新たな学校づくり委員会を開催しました。委員長の長野大学早坂先生の進行で、進捗状況と今後の計画について確認しました。また、シンポジウムに向け、作業部会での校舎検討の詳細について、早稲田大学田中先生から説明があり、内容について委員の方から意見をいただきました。

## 【中川村新たな学校づくりシンポジウム】

10月4日（土）に「今、学校づくりはどこまでできているか」をテーマに今年度2回目となるシンポジウムを開催しました。進捗状況や検討内容の説明が中心となる前半のセッションには約60人、小ホールを会場にしたワークショップを行う後半のセッションには約50人が参加しました。



第4回委員会



シンポジウム



田中研究室作成の模型

前半では、現在の進捗状況や作業部会での検討内容について説明を行いました。田中先生からは検討内容を基に書き起こした学校施設の平面イメージを用いて、田中研究室の学生のみなさんからは検討内容を基に作成した模型を用いて、それぞれ説明をしていただきました。

後半は前半の説明を基にしたワークショップを3つのグループに分かれて行いました。参加者からは、「小1と中3が同じ場所で運動するのは危ないため体育館を分けられるようにできるとよい」などの意見が出されました。シンポジウムの様子は、村公式ホームページで公開しています。

中川村新たな学校づくりシンポジウム  
記事ID:12386



## 新たな学校のコンセプト(構想)

中川村が目指す  
新たな学校の姿

美しい村・中川村を再発見し、自ら楽しみ、次世代につなげる「みんなの学校」

学校教育が目指す  
子どもの姿

自ら考え、判断し、行動して、人生を開拓する力を育む  
1. 探究的に学ぶ 2. ごちゃまぜに学ぶ  
3. 中川村全体を学びの場としてグローバルに学ぶ

設計のコンセプト	内容
未来の学びに、柔軟に対応する	子どもを取り巻く社会環境が激変する中、今後、「学び」そのものも大きく変化することが予想される。学び方の多様化(全体・グループ・個別など)や、学び相手の多様化(同学年、異学年、地域の人など)に漸次的に対応していけるようにする 【 <b>集まって学ぶ</b> ⇔ <b>個々が学びを選択する</b> 】という相反する概念を共存させる空間をつくる】
子どもを包摂しつつ、多様性を開く	安心安全な学習空間を確保すると同時に、児童・生徒がそれぞれの興味・関心に応じて、普通教室から飛び出して学べるようにする 【 <b>包み込む</b> ⇔ <b>開く</b> 】という相反する概念を両立する空間をつくる】
豊かな自然・地域をつなぐ	「中川村の面白い人々、やさしい人々」「中川村の豊かな自然美しい景色」「中川村で作られる美味しい野菜」「中川村の暮らし、歴史、文化」に出会い・感じながら学べるようにする 【中川村の美しさとの <b>計算不可能な出会い</b> をデザインする】

【作業部会での検討内容】  
●設計のコンセプト  
新たな学校には、「新たな学校のコンセプト(構想)」の実現につながる学校施設が求められます。このことを、建築的に検討しやすくするためには、「新たな学校のコンセプト(構想)」を、多様な専門家とともに設計

のコンセプトに変換することが有効だと考え、作業部会を設けて検討しました。  
プロポーザルにあたっては「設計のコンセプト」(イメージ)を示したうえで、ブラッシュアップする形での提案を求めていく方針です。

# 新たな学校づくり委員会で検討された学校の理想配置図



※配置は決定ではありません。あくまでも一例です。

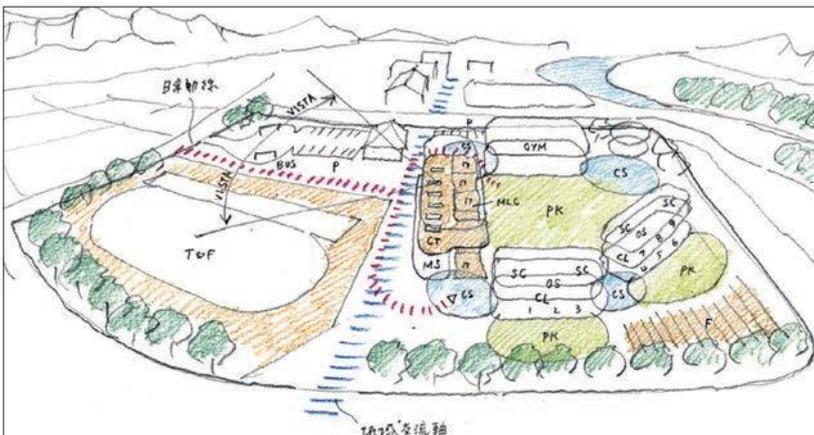
配置計画の方向性を、校庭の配置で類型化しました。中学校の現校舎を残したままの工事を想定していることや地域との交流のしやすさ、中央アルプスの眺望を確保できる点などから、校舎を東に、校庭を西に配置するB案が総合的に最も高く評価されました。B案で課題となっていたアクセスについては、校庭の向きを変更することで、よりアクセスのしやすい配置のB2案となっています。

これらの学校施設のイメージは、ひとつの例です。今後、村の財政状況を踏まえた検討がさらに進められます。

	A案：△	B案：◎	C案：○
配置イメージ			
校庭	南	西	東
校舎	北	東	西
工事	△(第2期工事が発生)	○	△(第2期工事が発生)
アクセス	○(西から)	△(南から) ※道路に課題あり	○(西から)
未来の学び	×(学びの柔軟性を確保しにくい)	○	○
空間の包摂性・多様性	△	○	○
自然	×(外部空間が多様になりにくい)	○(眺望を確保できる)	△(眺望が体育館と干渉)
地域交流	△(北側に圧迫感がある)	○	○

## 平面イメージ

作業部会での議論を基に田中先生にイメージを描いていただきました。中川村新たな学校づくりプロジェクトのこれまでの検討を反映した学校施設の一例となります。今後さらに検討を進めます。新たな学校の施設規模は6,500m<sup>2</sup>を想定して検討しています。



※配置は決定ではありません。あくまでも一例です。

項目	方向性
①普通教室	CL:普通教室、OS:オープンスペース
②特別教室	GYM:体育館、SC:特別教室
③共有スペース	MLC:メディアラーニングセンター、CT:カフェテリア、CS:コミュニティスペース、VISTA:眺望
④管理諸室	MS:管理諸室
⑤外構	PK:ひろば、F:畑T&F:校庭、P:駐車場